

モニタリングサイト1000の概要

○ モニタリングサイト1000とは

モニタリングサイト1000（正式名称：重要生態系監視地域モニタリング推進事業）は、全国の様々なタイプの生態系（森林・草原、里地里山、高山帯、湖沼・湿原、砂浜、磯、干潟、藻場、アマモ場、サンゴ礁、島嶼）に1000カ所程度の調査サイトを設置し、長期継続してモニタリングしていく事業です。モニタリングで得られたデータを分析することにより、生物種の減少など、生態系の異変をいち早く捉え、迅速かつ適切な保全施策につなげることを目的としています。

生物多様性センターは、平成15（2003）年度から、このモニタリングサイト1000を開始し、全体の枠組みの構築、調査項目及び手法の検討、調査サイトの設置、試行調査等を進めてきました。

○ 調査サイトの設置と調査方法

我が国の自然環境の変化を把握するため、森林、里地里山などの生態系タイプごとに、全国的な生態的地域区分を考慮しながら調査サイトの設置を進めており、これまでに1016サイト（一部暫定箇所を含む。）を設置しました。

各生態系タイプにおいて重要な機能を果たす指標生物群を定量的に評価することで、生物多様性及び生態系機能の状態を把握する調査設計をとっています。具体的な調査方法については、生態系タイプごとに指標生物群の検討を行い、定量性・継続性に留意して調査方法を決定しています。

○ 調査体制の構築と調査成果の活用

調査の実施に当たっては、関係する研究者や地域の専門家、NPO、市民ボランティア等とネットワークを構築し、調査の継続性を図っています。また、上記の調査関係者との間に情報共有の仕組みを構築することにより、迅速かつ精度の高い情報の収集及び利用を進めています。

収集された情報は、生物多様性センターにおいて蓄積・管理し、年次報告書、速報等で逐次公開するとともに、5年ごとに総合解析を行う予定です。これらの調査結果は、専用のホームページ（※）等を通じて広く公開していきます。これにより、国の関係機関はもちろん、地方自治体、NPO、市民ボランティア、研究者、学校などにおいて幅広く活用されることを期待しています。

※モニタリングサイト1000ホームページ

URL : <http://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html>

モニタリングサイト設置状況（2008年7月1日現在）

2008年7月1日現在

※暫定のサイトを含むため、サイト数は暫定値

分野	調査サイト	主要調査項目	サイト数(※)	調査主体		
陸域	森林・草原	コアサイト (毎年調査)	①植生概況調査 ②毎木調査 ③落葉落枝調査 ④地上徘徊性甲虫類調査 ⑤陸生鳥類調査	19	研究者	
		準コアサイト (5年毎に調査)	①植生概況調査 ②毎木調査 ③陸生鳥類調査	24	研究者	
		一般サイト (5年毎に調査)	①植生概況調査 ②陸生鳥類調査	422	市民調査員	
	里地	コアサイト	①人為的インパクト調査 ②草本植物調査 ③水環境調査 ④指標動物調査(6項目)	18	市民調査員	
		一般サイト	コアサイトの9調査の中から1調査	181	市民調査員	
陸水域	湖沼 湿原	コアサイト	①植生概況調査 ②魚類調査	30	研究者	
		一般サイト	①植生概況調査 ②ガンカモ類調査	81	市民調査員	
海域	沿岸・浅海域	砂浜	①海浜概況調査(面積、植生、砂 粒度組成) ②ウミガメ産卵上陸状況調査 ③後背地植生調査	41	市民調査員	
		磯	①底生生物調査	6	研究者	
		干潟	コアサイト	①底生生物調査 等	8	研究者
			一般サイト	①干潟概況調査 ②シギ・チドリ調査	120	市民調査員
		アマモ場	①海草調査 等	6	研究者	
		海藻藻場	①海藻調査 等	6	研究者	
		サンゴ礁	①物理環境調査(底質、底質中懸 濁物含有量) ②生物生息把握(サンゴ被度、オ ニヒトデ調査等)	24	研究者	
海域	島嶼のう ち小島嶼	①植生概況調査 ②全生息鳥種調査 ③対象種調査	30	研究者		
合 計			1016			

※高山帯生態系については、サイト・調査方法を現在検討中。